



インタビューに答える永吉さん。現在、社員は200名程。「みんなの銀行」を志望する就活生も増えてきているという

ふくおかフィナンシャルグループ（以下、FFG）から生まれた日本初のデジタルバンク「みんなの銀行」は、銀行業界が持つ長い歴史と組織カルチャーの中でイノベーションを実現させた。その過程と成果を記した本書は、新事業を立ち上げる必要性を感じている成熟企業の経営者や新規事業の担当者にも勇気を与える内容となっている。

創設の立役者である「みんなの銀行」取締役頭取 永吉健一さんは、ベンチャー企業家の風貌とは裏腹に、銀行員としてキャリアを積んできた。「プロジェクトは、2014年にFFGの社長だった柴戸隆成会長から『10年後の銀行のあるべき姿を見据えて、これまでの延長線上にない、非連続の成長戦略を描いてほしい』というミッションから

書籍紹介

『イノベーションのジレンマからの脱出』 —日本初のデジタルバンク「みんなの銀行」誕生の軌跡に学ぶ—

みんなの銀行



「みんなの銀行」は日本初のデジタルバンクで、ふくおかフィナンシャルグループから生まれました。スマホだけで全てが完結する新しい金融サービスを提供し、基幹システムもすべてゼロから設計・開発しています。みんなの銀行を起こした中心人物は、ふくおかフィナンシャルグループの行員です。本書は、企業にいながらイノベーションを起こした創設者たちの物語です。

日経BP発行 2,200円(税込)



←Amazonから
ご注文いただけます

※書店でもお求め
いただけます

始まりました」

その最初の一步が、個人向けのマネーアプリ「Wallet+」の開発だった。この経験を糧に「既存の勘定系システムを使わず、銀行システムをゼロから作る」という前代未聞のチャレンジが始まった。

「次世代の銀行を作る」という志のもと、銀行員だけでなく、デザイナー、エンジニア、マーケター、データサイエンティスト

ト等、これまでの銀行とは異なるキャリアを持ったメンバーが集った。メンバー同士で意見をぶつけ合いながら「みんなの銀行」を形作っていく様子は本書に詳しく書かれている。

「みんなの銀行」は、2021年5月28日にサービスを開始した。開業3周年を前に口座開設100万口座目前と順調にユーザーを拡大。スマホ専



本書にも登場する「みんなの銀行」創業メンバー。左から吉富さん、永吉さん、中原さん

業でフレンドリーかつ使いやすいサービスは30代以下のデジタルネイティブ世代に支持され、ユーザーも全国に広がっている。

驚異的なスピードでイノベーションを進められた背景には「アジャイル」という考え方がベースにある。「最初から完璧なプロダクト提供をめざすのではなく、お客さまの声に耳を傾け、少しずつ世の中にフィットするプロダクトへ改善することを目指しています」

今後の展望について「個人向け金融サービスB2C事業に加え、事業者向けのBaaS事業にも注力し、『みんなの銀行』の金融機能をAPI経由でパートナー企業へ提供し、新たな価値共創を実現していきます」と語る。

”

銀行を「Re-Design (再デザイン)」し、

「Re-Define (再定義)」することで、銀行が提供してきた

3大機能(金融仲介、信用創造、決済)を、新・3大機能

(価値仲介、信頼創造、決裁)に進化させる。

“



Profile みんなの銀行 取締役頭取 永吉 健一 (ながよし・けんいち)

1995年、福岡銀行入行。経営企画部門に在籍し、2007年、ふくおかフィナンシャルグループの設立などに従事。2016年、企業内ベンチャーとして、ネオバンクを運営するiBankマーケティングを1万円で起業後、みんなの銀行の前身となるデジタルバンクプロジェクトをけん引し、2022年4月より現職。